

第3学年 指導計画

1 単元名 「只見の森の四季」

2 単元設定の趣旨

自然ゆたかな只見の四季について調べたり体験したりすることを通して、只見の自然のすばらしさや厳しさを感じ、自分がその自然とどのように関わって生きていくのかについて考えることができる。

3 単元の目標

- 自然ゆたかな只見の四季について興味を持ち調べることができる。
- 調べたことや考えたことを発表物にまとめ、相手に分かりやすく発表したり聞いたりすることができる。
- 自分が自然ゆたかな只見の四季にどのように関わって生きていくのかについて考えることができる。

4 単元の指導計画

次	小単元名（時間） ○主な学習内容 ・活動	○指導上の留意点 ◎評価 ☆G T
第一 次 (4)	<p>1 只見の春を見つけよう（2）</p> <p>◇ 学校周辺の森で春の風物詩である植物や生き物を探し、春の訪れを感じるとともに、単元の学習課題をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の回りを散策し、春の訪れとともに変化する植物や生きものの様子を観察する。 ○ 桜、イチョウ、もみじ ○ 木肌、葉の形や色 ○ チョウ、ミツバチ、テントウムシ など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学校周辺の森には、どんな植物や生きものが生きているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べて分かったことをポートフォリオにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校のまわりにある木々の観察からはじめ、その後に旅行村をステージとして木々のようすについて探求、体験を進めていく。 ○ 豊富な只見の自然について、樹木についての学習を通して感じさせていく。 ○ 大雨が降っても、健康な森のあるところは、雨水を貯めて豊富な水資源を供給してくれること、健康な森がなくなったら、私たちはすぐに水不足に陥ることを知らせる。
第二 次 (8)	<p>2 若葉を比べよう（4）</p> <p>◇ 青年旅行村でさまざまな木々の若葉を採取し、樹木の葉の特徴について調べることで、春の葉の特徴を理解する。</p> <p>< 1 / 4 ~ 2 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年旅行村でさまざまな木々の若葉を採取 	<p>☆G T：ブナセンター職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 春の早い時期との葉の色の違いにも着目させ、季節とともに葉の色が変化していることに気づかせたい。 ○ 森の色合わせ

	<p>し、虫眼鏡で観察したりスケッチしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネイチャーゲームを楽しむ。 ○ 森の色合わせ <p>< 3 / 4 ~ 4 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 採取した葉について、図鑑やインターネットを用いてさらに詳しく調べる。 ○ 葉脈のようす、植生 など ・ 調べて分かったことをポートフォリオにまとめる。 <p>3 田子倉湖散策 (4)</p> <p>< 1 / 4 ~ 4 ~ 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 小型ボートに乗って、ブナ林や浅草岳などの景観を楽しむ。 	<p>緑といっても葉の緑はさまざま。先生が準備した緑色の色紙にできるだけ近い葉を集め、誰の葉が一番近い色香を楽しむゲーム。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エタノールを用いて葉緑素をぬき、虫眼鏡等で観察させたい。
<p>第三次 次 (6)</p>	<p>4 八十里を越えて海へ (6)</p> <p>< 1 / 6 ~ 6 / 6 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 八十里峠 (R 2 8 9) 工事の進捗状況を見学する。 ・ トンネルの様子 ・ 旧道 (八十里越) の様子 ・ 橋の工事の様子 ◇ 日本海では、砂遊びや地引き網体験等を行い、海に親しみ、海の恵みを感じる。 ・ コハダ、カニ、トビウオ、アジ など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海を守ること、海の恵みを受け取ること、海を利用することと将来の町づくりについての意識を高める。
<p>第四次 次 (6)</p>	<p>5 木の名前を調べよう (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 青少年旅行村や癒やしの森に行き、ブナをはじめとする樹木を観察し、樹木の名前を調べる。 <p>< 1 / 6 ~ 6 / 6 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回観察した若葉の色や形がどのように変化しているか観察する。 ○ 葉の色が濃くなっている ○ 葉の数が多くなっている ・ 前回調べることができなかった樹木を観察する。 ○ ブナ、とちのき、栗の木、もみじ など ○ 木肌の様子 ○ 葉の形 ○ 実の形やようす ○ 樹木の名前 	<p>☆GT : 古川勝久さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 樹木を観察しながら、只見では昔から樹木を木材や燃料として、木の実を食料として利用してきたことについてGTから話を聞く。 ○ 森は多くの生き物に餌と棲みかを与える場所であり、落ち葉や木の実が多くの生き物の餌になり、餌を食む動物がそのほかの動物の餌になったりしていることについて知らせる。また、生物がもっとも豊かな森は、照葉樹林で、間伐などの手入れが行き届き、風通しのよい針葉樹林に多くの生き物が棲んで

	<ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことをポートフォリオにまとめる。 	<p>いることを知らせる。</p>
第五次(4)	<p>6 森の生きものを探そう(4)</p> <p>◇ 青少年旅行村でさまざまな生きものを採取し、図鑑などで名前やその特徴について調べる。</p> <p><1/4~2/4></p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年旅行村で夏の昆虫を採取し、身体づくりや色などの特徴を虫眼鏡で観察する。 ○ セミ、バッタ、コオロギ など <p><3/4~4/4></p> <ul style="list-style-type: none"> 採取してきた昆虫について、卵の時の姿や餌などについて調べる。 採取してきた昆虫の世話をしたり、観察したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近なところでも多くの昆虫が元気になる季節であることに気づかせたい。 ○ 虫かごを持参し、採取した昆虫を観察のためにしばらく飼いたい。 ○ 観察したあとは自然に戻すようにしたい。
第六次(4)	<p>7 木の葉の色づきを比べよう(4)</p> <p>◇ 青少年旅行村で広葉樹の葉の変化について観察し、秋に葉が色づく仕組みについて調べる。</p> <p><1/4~2/4></p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年旅行村でさまざまな木々の葉を採取し、虫眼鏡で観察したりスケッチしたりする。 葉が色づく仕組みについて話を聞く。 <p><3/4~4/4></p> <ul style="list-style-type: none"> ネイチャーゲームを楽しむ。 ○ 森の美術館 森の美術館で作った作品を鑑賞し合い、自然の美しさを味わう。 鑑賞し合って感じたことを交流する。 	<p>☆GT: ブナセンター職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ネイチャーゲームを楽しむことをめあてとして、様々な色の葉や木の実を意欲的に集めさせる。 ○ 森の美術館 自然の中の美しいものやおもしろいものを探し、みんなで鑑賞する遊び。アイテムは厚紙や段ボールなど、様々な素材を使った額縁のみ。いろいろな形や大きさのものを準備する。自然の美しさを分かち合い、観察力を養うことができる。 ○ 学年だけでなく、他の学年にも紹介する機会を設け、只見の自然の美しさやおもしろさを広めたい。
第七次(6)	<p>8 学習したことを発信しよう(6)</p> <p>◇ これまでに学習した森の樹木や生きものについて、学習発表会で発表するために、劇の台本やポスターなどを作成する。</p> <p><1/6~2/6></p> <ul style="list-style-type: none"> 森の樹木や生きものについて話し合い、劇の大筋を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の様子を写真やワークシートなどでふり返り、どのような劇にして発表したいか意欲を高めるようにする。 ○ 児童には発表の大筋を話し合わせ、担任が作成する。また、児童と台本を読み合わせ、一緒に作り上げた劇となる

	<ul style="list-style-type: none"> 大筋に添って担任が作成した台本を読み合い、完成に向けて意見を出し合う。 < 3 / 6 ~ 4 / 6 > 劇に必要な道具を話し合い、係を分担し協力して作成する。 < 5 / 6 ~ 6 / 6 > 発表するための練習に取り組む。 	<p>ようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科や音楽科、図工科などと合科的に扱い、指導時数を確保する。
第八次 (5)	<p>9 木の芽を比べよう (4)</p> <p>◇ 落葉後の樹木は、次の春を迎えるために木の芽を準備していることを観察する。 < 1 / 4 ~ 2 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 落葉後の樹木を観察し、スケッチする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 枝の様子、裸木の美しさ < 3 / 4 > 枝の様子を詳しく観察し、春を迎える準備をしていることを知る。 糞虫を観察し、春に成虫になる準備をしていることを知る。 < 4 / 4 > その他の植物や生きものの冬の様子について調べる。 調べて分かったことをポートフォリオにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 冬の樹木は、春から秋にかけて葉に覆われていたため、見るができなかった美しい枝の様子を観察することができる。その美しさをスケッチすることで感じさせたい。 春の準備のために木の芽ができていることを観察し、冬はゆっくりではあるが春を待つ準備が進められていることに気づかせたい。 只見に生息する熊の冬眠の様子や、冬でも活動する生きものについて調べさせ、次單元への意欲を持たせたい。
第九次 (6)	<p>10 動物の足跡を見つけよう (6)</p> <p>◇ 入叶津地区でスノーシュー体験をし、動物の足跡を探すことで厳しい冬の間も生き物が活動していることを知る。また、固雪渡りを体験することで冬を感じる。 < 1 / 6 ~ 2 / 6 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 冬に活動する生きものについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ウサギ、カモシカなど < 3 / 6 ~ 6 / 6 > スノーシュー体験や固雪渡りをして楽しむ。 体験してきたことの感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験では、冬の雪の様子や動物の足跡などから、雪が多く厳しい冬を力強く乗り越えている動物がいることを感じさせたい。 固雪渡りを通して、冬の厳しさとその自然を楽しむおもしろさを体験させ、只見の良さと結びつけたい。
第十次 (4)	<p>11 只見の四季についてまとめよう (4)</p> <p>◇ 1年間に渡って体験したり調べたりしてきた只見に四季について、只見の良さ、厳しさについてまとめ、ワークショップをする。また、自分と自然との関わりについて考え、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 只見の厳しさの一つである豪雪については、発想を転換することで楽しみに変えてきた雪まつりなどとも関連づけ、よさを中心に振り返ることができるようにする。

	<p>< 1 / 4 ~ 2 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の体験について写真等を見て振り返り、只見の自然の良さや厳しさについてワークシートに書く。 ○ 動植物が豊富、自然が美しい ● 雪が多い など <p>< 3 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 只見の良さと厳しさについて意見を交換し合い、自分がどう関わって生きていきたいかについて考えをまとめる。 <p>< 4 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生き方について作文を書き、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 映像やポートフォリオなどから、1年間を具体的に想起させ、考えさせるようにする。 ○ 只見の自然のよさをどうやって守りたいか、厳しさをどうやって楽しみに変えていきたいか。
--	--	---

「よりよく問題を解決する資質や能力」

自然ゆたかな只見の四季について関心をもち、調べたり話し合ったりしている。

「学び方やものの考え方」

インターネットを活用したり、インタビューしたりして進んで調べている。

「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」

調べたことや考えたことを発表物にまとめ、相手に分かりやすく発表したり聞いたりしている。

「自己の生き方」

自分が自然ゆたかな只見の四季にどのように関わって生きていくのかについて、自分の考えをもっている。

第4学年 指導計画

1 単元名 「海とともにある只見の食文化」

2 単元設定の趣旨

只見町は内陸に位置しているが、八十里越を通過して海産物や塩、食文化などが日本海方面から入ってきた。それらを学ぶことにより、先人がどのように生きてきたのかを知り、自分が只見町でどのように生きていくのかについて考えることができる。

3 単元の目標

- 八十里越を通過してやってきた海産物や塩、食文化、先人の行き方について、興味を持ち調べることができる。
- 調べたことや考えたことをレシピブックにまとめ、相手に分かりやすく発表したり聞いたりすることができる。
- 自分がユネスコエコパークのまち只見町にどのように関わって生きていくのかについて考えることができる。

4 単元の指導計画（総時数50時間）

次	小単元名（時間） ◇主な学習内容 ・活動	○指導上の留意点 ◎評価 ☆GT
第一次（4）	<p>1 八十里越って何だろう（5）</p> <p>◇ 只見町が海とつながってきた八十里越について知り、どのようなものが八十里越を通過してきたか学習する。</p> <p><1/5～2/5></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土料理を調べ、使われている材料から八十里越を通過して運ばれた食材と只見で採れる食材で作られていることを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 只見で採れる食材 里芋、わらび、長いも ○ 八十里越を通過して運ばれた食材 だし昆布、にしん ・ 八十里越について只見学ガイドブックで調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 叶津から三条市へ ○ 河井継之助が通った ○ 現在工事中である ・ 八十里越を通過して只見にもたらされた物品を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 塩 ○ 魚介類 他 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 只見学ガイドブックは、内容に難しい部分があるため、文章をかみ砕いて説明する。 ○ 険しい八十里越を通過して、人や物品が盛んに行き交っていたことを感じさせたい。 ○ 食材の他にも八十里越を通過して只見に入ってきたものがあることから学習課題に繋げる。 ○ 八十里越は、6月の学校行事「八十里を越えて海へ」で工事の様子を見学してくる。この行事への期待感とともに学習を進めていきたい。

	<p>只見の郷土料理はどのようにして作られてきたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな郷土料理があるか ・ どんな歴史があるか ・ どんな食材が使われているか <p>< 3 / 5 ~ 5 / 5 ></p> <p>◇ 立てた学習課題をもとに調べ学習に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ にしんの昆布巻き、さとう豆、ざく煮 	
第二次 (4)	<p>2 田子倉湖散策 (4)</p> <p>< 1 / 4 ~ 4 / 4 ></p> <p>◇ 小型ボートに乗って、只見を取り巻く豊かな自然環境に気付く。</p>	<p>○ 只見を取り巻く豊かな自然や、只見町が海とつながっていることに気づく。</p>
第三次 (7)	<p>3 八十里を越えて海へ (7)</p> <p>< 1 / 7 ~ 7 / 7 ></p> <p>◇ 八十里峠 (R 2 8 9) 工事の進捗状況を見学する。</p> <p>◇ 日本海では、水族館見学を行い、生態系や地球環境について知ることを通して、海の視点を踏まえた郷土料理についての意識を高める。</p>	<p>○ 海を守ること、海の恵みを受け取ること、只見の郷土料理と海との関係についての意識を高める。</p> <p>G T : 只見振興センター長、海洋アライアンス</p>
第四次 (4)	<p>4 郷土料理を調理してみよう (4)</p> <p>◇ 「笹巻き」を作って味わう。</p> <p>< 1 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「笹巻き」について調べる。 <p>< 2 / 4 ~ 3 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「笹巻き」をG Tと一緒に作って食べてみる。 <p>< 4 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作って食べたことや、G Tから聞いた話をまとめる。 	<p>☆G T : 平野祥子さん 食生活改善推進委員</p> <p>○ ゲストティーチャーを招き、助言を受けながら児童自身の力で作らせるようにする。また、作った郷土料理は、全員が味見することで、郷土料理を体験できるようにする。</p>
第五次 (10)	<p>5 只見の食の歴史について調べよう (10)</p> <p>◇ 只見で収穫される食材が、日本海からもたらされる只見の気候と深い関係があることについて、G Tから説明を受けたり、調べたりする。</p> <p>< 1 / 10 ~ 5 / 10 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 只見で採れる山菜が太くて立派なのは ・ イワナや赤はらがたくさん採れるのは <p>< 6 / 10 ~ 9 / 10 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八十里を越えてやってきたもの ・ 八十里を越えて運んだもの ・ 当時の人々の暮らし 	<p>○ 古民家レストラン訪問や、旧長谷部家 (叶津番所) の見学を通して、当時の人々の暮らしや、八十里を越えて流通していた物品について知る。</p> <p>○ 雪食地形やブナ林、清らかな水などが只見の食材と関係していること、海からもたらされた豪雪とも深い関係が</p>

	<p>< 10 / 10 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことや考えたことを話し合い、学習のまとめをする。 	あることに気づかせたい。
第六次 (4)	<p>6 郷土料理を調理してみよう (4)</p> <p>◇ 「にしんの昆布巻き」を作って味わう。</p> <p>< 1 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 「にしんの昆布巻き」について調べる。 <p>< 2 / 4 ~ 3 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 「にしんの昆布巻き」をGTと一緒に作って食べてみる。 <p>< 4 / 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 作って食べたことや、GTから聞いた話をまとめる。 	<p>☆GT：平野祥子さん 食生活改善推進員</p> <p>○ ゲストティーチャーを招き、助言を受けながら児童自身の力で作らせるようにする。また、作った郷土料理は、全員が味見することで、郷土料理を体験できるようにする。</p>
第七次 (6)	<p>7 只見の郷土料理のよさをまとめよう (6)</p> <p>◇ 1年間に渡って体験したり調べたりしてきた只見の郷土料理と人々の生き方についてまとめる。</p> <p>< 1 / 6 ~ 6 / 6 ></p> <ul style="list-style-type: none"> これまで学んだことや考えたことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習でわかったこと ○ 只見の郷土料理ができたわけ ○ 只見の郷土料理や海との関わり 	○ 郷土料理の作り方だけではなく、自分と郷土料理、自分と食材のかかわりで感じたことや考えたことを記入させたい。
第八次 (10)	<p>8 郷土料理のよさを伝えよう (10)</p> <p>◇ 只見町の郷土料理である「ざく煮」を作り、保護者に振る舞うとともに、そのいわれについて発表する。</p> <p>< 1 / 10 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 「ざく煮」の作り方を調べる。 <p>< 2 / 10 ~ 4 / 10 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 「ざく煮」をGTと一緒に作って食べてみる。 保護者に振る舞う。 <p>< 5 / 10 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 「郷土料理」について一年間学習してきたことを、保護者に発表し理解を深める。 <p>< 6 / 10 ~ 10 / 10 ></p> <ul style="list-style-type: none"> これまで学習して感じたことや考えたことを交流し、自分たちにできることは何かを考える。 	<p>○ ゲストティーチャーに対して、同じ質問が何度も届くことがないように、グループで確認させながら質問させる。</p> <p>○ ゲストティーチャーを招き、助言を受けながら児童自身の力で作らせるようにする。また、作った郷土料理は、授業参観で保護者に振る舞うことで、郷土料理を学習した喜びを感じさせたい。</p> <p>○ 次は自分たちが受け継ぎ、只見町の郷土料理の伝統を守っていくという気持ちを高めさせたい。</p>

◎評価の観点

「よりよく問題を解決する資質や能力」

八十里越を通過してやってきた海産物や文化、先人の行き方について関心を持ち、調べたり話し合ったりしている。

「学び方やものの考え方」

アンケートやインターネットなどを活用し、進んで調べている。

「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」

グループの仲間と進んで意見交換をし、劇づくりに意欲的に取り組んでいる。

「自己の生き方」

ユネスコエコパークのまち只見の住民として、自分がどうかかわっていくかについて、自分の考えをもっている。

第5学年 指導計画

1 単元名 「ユネスコエコパークのまち只見の水と海」

2 単元設定の趣旨

只見町はユネスコエコパークに指定されている。また内陸に位置している只見に降る雨や雪等の水は、日本海がもたらしている。その水は広大な只見のブナ林に蓄えられ、雪融けとともに只見川を流れ、いずれ阿賀野川と合流して海へと注ぐ。それらについて水循環を通して学ぶことによって、自分が只見町でどのように自然と関わって生きていくのかについて考えることができる。

3 単元の目標

- ユネスコエコパークのまち只見町について、興味を持ち調べることができる。
- 調べたことや考えたことを発表物にまとめ、相手に分かりやすく発表したり聞いたりすることができる。
- 自分がユネスコエコパークのまち只見町にどのように関わって生きていくのかについて考えることができる。

4 単元の指導計画（総時数

次	小単元名（時間） ◇主な学習内容 ・活動	○指導上の留意点 ◎評価 ☆G T
第一 次 (2)	<p>1 ユネスコエコパークって何だろう（2）</p> <p>◇ ユネスコエコパークについて知り、世界に認められた只見の自然や水について学習する見直しをもつ。</p> <p><1/2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユネスコエコパークとはどのようなものか調べる。 ○自然が豊か ○希少な動植物 ○自然の利用 <p><2/2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユネスコエコパークに認められた只見の環境について話を聞く。 ○ブナ、雪、水 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ユネスコエコパークに認められた只見の自然環境や水について調べ、自分がどう関わっていくか考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユネスコエコパークと世界自然遺産の違いに着目し、ユネスコエコパークとはどのようなものなのかについて、インターネットを活用して調べる。 ○ ユネスコエコパークに認められた只見には、どのような環境が認められる条件として整っているのか予想する。 ○ 予想したことをもとに、G Tから講話を聞き、詳しく学んでいくための学習課題と学習の見直しをもたせる。 <p>☆G T：新國勇さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 只見の自然が水循環を通して海とつながっていることを学んでいく。
第二 次 (5)	<p>2 豊かな水はどこから（5）</p> <p>◇ 田子倉湖散策を通し、豊かな水が大雪によってもたらされることに気付くことができる。</p> <p><1/5></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの経験から、田子倉湖の水がどこか 	

	<p>ら来ているのか予想し、散策の見通しを持つ (事前指導)</p> <p>< 2 / 5 ~ 4 / 5 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 田子倉湖散策に出かけ、湖や滝の様子から豊かな水は大雪によってもたらされることに気付く。 <p>< 5 / 5 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたり、観察したりしたことをまとめ、感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ モーターボートで田子倉湖周辺の自然を観察する活動を設定する。 ○ ワークシートを用いて感想をまとめ、交流する。
第三次 (6)	<p>3 只見の水について調べよう I (6)</p> <p>◇ ブナ林から流れる水が豊富な養分を含んでいることについて、パックテストを用いて調べる。</p> <p>< 1 / 6 ~ 3 / 6 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 大赤沢、あがりこの森に出かけ、パックテストを行う。(5月) <p>< 4 / 6 ~ 6 / 6 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 大赤沢、あがりこの森に出かけ、パックテストを行う。(7月) COD (有機物) が少し含まれ、きれいな水に棲む水棲昆虫 (トビケラ、プラナリア) などがいれば、きれいで豊かな水であるといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ パックテスト <p>※「共立理化学研究所 徳用 川の水調査セット TR-RW-2」を使用。</p> <p>※COD、アンモニウム態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、りん酸態りんの5つの成分を測定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パックテストと指標生物の2つの観点から、水のきれいさと豊かさについて調べる。 <p>☆GT：海洋教育センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パックテストや水生生物指標の効果や調べ方について、専門家から指導を受けて調べることができるようにする。
第四次 (7)	<p>4 八十里を越えて海へ (7)</p> <p>◇ 八十里峠 (R 2 8 9) 工事の進捗状況を見学し、日本海へ。海では、水族館を見学し、海に親しみ、海の恵みを感じる活動を行うことによって、海の視点を踏まえた只見の自然についての意識を高める。</p> <p>< 1 / 7 >事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 海に関する経験を話し合い、見学への見通しを持つ。 <p>< 2 / 7 ~ 6 / 7 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 八十里の工事を見学する。 水族館の見学を行う。 <p>< 7 / 7 >事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付いた川と海の間繋がりについて感想を交流しあう。 思ったことや感じたことを作文にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海を守ること、海の恵みを受け取ること、海を利用することと将来の町づくりについての意識を高める。 ○ 見たり聞いたりしてきたことについて、インターネットや書籍資料を用いて調べたり、まとめたりすることによって、学習を補充したり深化したりできるようにする。

<p>第三次 (9)</p>	<p>5 只見の水について調べようII (9)</p> <p>◇ ブナ林から流れる水が豊富な養分を含んでいることについて、パックテストを用いて調べる。また、学校周辺の川の水と比較しながら自然を守ることへの意識を高める。</p> <p><1/9～3/9></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大赤沢、あがりこの森、に出かけ、パックテストを行う。(9月) <p><4/9></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校周辺の用水路や只見川(まち湯付近)の でパックテストを行う。 <p><5/9～9/9></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたことを地図にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ パックテスト <p>※「共立理化学研究所 徳用 川の水調査セット TR-RW-2」を使用。</p> <p>※COD、アンモニウム態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、りん酸態りんの5つの成分を測定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パックテストと指標生物の2つの観点から、水のきれいさと豊かさについて調べる。 <p>☆GT：海洋教育センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パックテストや水生生物指標の効果や調べ方について、専門家から指導を受けて調べることができるようにする。
<p>第七次 (10)</p>	<p>7 只見の自然と海の関係について調べよう (10)</p> <p>◇ 「八十里を越えて海へ」についてふり返り、海洋の問題点について話し合ったり、調べたりする。また、只見の自然と海との関係について調べたり、話し合ったりする。</p> <p><1/10～5/10></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋の問題点について調べたり、話し合ったりする。 (海洋汚染、海洋の温暖化、水産資源 など) ・ 只見の自然と海との関係について調べたり、話し合ったりする。 <p><6/10～9/10></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海で起きている問題を解決するために、自分たちにできることを話し合い、実践する。 ・ プレゼンテーションソフトを使ってまとめ、自分たちの実践を発表する準備をする。 <p><10/10></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海で起きている問題を解決するために自分たちにできることを全校生に提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海の恵みを感じてきたことを想起し、海にはどんな問題があるのかについて関心をもたせる。 ○ 水循環を通して、只見の自然と海は密接につながっていることを押さえない。 ○ 海洋の問題は世界的にも重要であり、身近な取組をしていくことが問題解決につながることに気づかせたい。 <p>☆GT：渡部和子さん 海洋教育センター</p>
<p>第八次 (9)</p>	<p>8 ユネスコエコパークのまち只見で自然と共生していくための生き方を考え実行しよう (9)</p> <p><1/9～3/9></p> <p>◇ これまで学習してきた只見の自然について、水循環から海とつながっていること、ゆたかな水産資源をまもるためには只見の自然を守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 只見の水と海とのつながりの学習で調べてきたことをふまえて、自分ができることを話し合う。

	<p>ことが大切であることを話し合う。</p> <p>< 4 / 9 ~ 9 / 9 ></p> <p>◇ 『自分とユネスコエコパーク』というテーマで作文を書き、ユネスコエコパークのまち只見の住民としての自分の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分としてのエコパークとの関わり ・ 自分の将来やこれからの生き方、エコパークとの関わり方について考える <p>◇ 自分が実践していくことを交流する。</p>	<p>○ ユネスコエコパークのまち只見でこれからの自分はどう生きるべきかについて、具体的な取組を考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ ESD、ユネスコエコパーク、発展などの理念が捉えられているか。(作文)</p> </div>
--	---	---

◎評価の観点

「よりよく問題を解決する資質や能力」

ユネスコエコパークについて関心をもち、調べたり話し合ったりしている。

「学び方やものの考え方」

アンケートやインターネットなどを活用し、進んで調べている。

「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」

グループの仲間と進んで意見交換をし、パンフレットづくりに意欲的に取り組んでいる。

「自己の生き方」

ユネスコエコパークのまち只見の住民として、自分がどうかかわっていくかについて、自分の考えをもっている。

第6学年 指導計画

1 単元名 「只見町の将来を提案する～海とつながり、世界と結びつく～」

2 単元設定の趣旨

只見町はユネスコエコパークに指定され、自然が豊かである。また只見町は、数年後には八十里越（国道289号）が開通する予定であり、近い将来に三条市と結ばれ、新潟県、日本海と非常に近い町となる。そのことが未来の只見町の発展にとってどのような影響を及ぼすのかについて学ぶことによって、自分が只見町の発展にどのように関わって生きていくのかについて考え、提案することができる。

3 単元の目標

- 未来の只見町について提案するための課題を見つけ、その解決策や町づくりについて興味を持ち調べることができる。
- 調べたことや考えたことをまとめ、相手に分かりやすく発表したり聞いたりすることができる。
- 自分が只見町の発展にどのように関わって生きていくのかについて考えることができる。

4 単元の指導計画（総時数51時間）

次	小単元名（時間） ◇主な学習内容 ・活動	○指導上の留意点 ◎評価 ☆G T
第一次 (1)	<p>1 只見町ってどんな町（1） < 1 / 1 ></p> <p>◇ 総合的な学習で学んできた只見町のこと、東京で見てきた都会の良さと課題について振り返り、町の良さや課題について再確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学んだ只見町の良さを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○自然が豊か ○山菜が豊富 ○雪食地形 ○雪まつり 等 ・ 只見町の課題を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ●交通の便が悪い ●豪雪地帯である ●産業が少ない ●少子高齢化・人口減少 ・ どんな町にしていきたいか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○楽しい町 ○住みたくなる町 ○買い物などが便利な町 等 ・ 取り入れたいこと <ul style="list-style-type: none"> ○遊園地 ○コンビニ ○高速道路 ○デパート など ・ 町の人たちはどう考えているか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○若い人が活躍する町 ○交通が便利な町 ○自然が豊かなままの町 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3～5年までの学習、田子倉湖散策等を想起し、具体的にできるだけ多く出すことができるようにする。 ○ 良さや課題について、その理由も話し合わせる。 ○ 修学旅行で見てきた都会の良さについて、スライドでふり返り、その後に話し合いをさせることによって、話し合いを活性化する。 ○ 始めにどんな町にしたいかをイメージさせ、イメージした町になるために取り入れたいことを具体的に話し合わせる。 ○ 自分たちの考えだけでなく、町の人々の考えにも目を向けることが必要であることを気づかせる。

<p>第 二 次 (19)</p>	<p>2 町の抱える課題と未来展望Ⅰ（９） < 1 / 9 ~ 6 / 9 > 『町の人々の考えを調べてみよう』</p> <p>◇ 保護者・地域・関係機関に取材（アンケート調査）し、町の人たちがどう考えているのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの内容を話し合い、アンケートを作る。（２時間） ・ 作ったアンケートを依頼する。（１時間） 朝日小６年、明和小６年、只見中２年、保護者、老人クラブ、町役場 等 ・ 回収したアンケートを集計し、町の人々の願いを分析し、未来の町づくりについて話し合う。（３時間） <p>< 7 / 9 ~ 9 / 9 > 『未来の町づくりのために只見の良さを感じよう』</p> <p>◇ G Tから世界に誇れる只見のことについて話を聞き、実際に見たり体験したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講話（１時間） ・ 体験（２時間） ブナ林、ユビソヤナギ、雪食地形 等 <p>3 田子倉湖散策（４） < 1 / 4 ~ 4 / 4 ></p> <p>◇ 小型ボートに乗って、ブナ林や浅草岳などの景観を楽しむ。</p> <p>4 八十里を越えて海へ（６） < 1 / 6 ~ 6 / 6 ></p> <p>◇ 八十里峠（R 2 8 9）工事の進捗状況を見学する。</p> <p>◇ 日本海では、水族館見学を行い、生態系や地球環境について思いをはせるきっかけづくりとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要に応じて何度も現地に出向き、実際に見たり、関係者にインタビューしたりして具体的に調べさせる。 ○ 町の人々の考えを知るためには、どのような方法で調べるか、どれくらいの情報を集めるか、などについて話し合い、アンケート調査を選択する。 ○ アンケートは、子供用、中学生用、大人用の３種類を作成し、１００程度の母体数とする。 ○ アンケート結果を分類し、願いを明らかにする。 ○ 講話のあとに、現地に出向いて体験することで、それらの良さを体感する。 ☆G T：新國勇さん <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ 未来の只見町について提案するためのイメージを具体的に持つことができたか。（観察・記録メモ）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 只見のよさ、自然の美しさ、そして、只見町が海とつながっていることに気づく。 ○ 海を守ること、海の恵みを受け取ること、海を利用することと将来の町づくりについての意識を高める。
-------------------------------	---	--

<p>第三次 (15)</p>	<p>5 町の抱える課題と未来展望Ⅱ（15）</p> <p><1/15～7/15></p> <p>『八十里越の開通と只見町について考えよう』</p> <p>◇ これまで体験してきたこと、町の人々の願い、将来の只見町に取り入れたいことなどを総合して、どのような町にしていきたいかについて話し合う。（1時間）</p> <p>◇ 近い将来に国道289号が開通した場合の只見町への影響について、調べたり話し合ったりして、未来の町づくりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『八十里を越えて海へ』を想起し、地図をもとにどことつながるか確認する。 三条市、新潟市、燕市、日本海 ・ つながる地域の文化や産業について調べる。（4時間） ・ 調べたことを交流し、将来の只見町に取り入れたいことや起業してみたいことについて話し合う。（2時間） <p><8/15～15/15></p> <p>『未来の町づくりを提案する準備をしよう』</p> <p>◇ これまでに調べたこと、話し合ったこと、考えたことをもとに、未来の町づくりについて提案するポスターを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポスターの内容をグループごとに話し合う。 ・ 話し合ったことをもとに、割り付けを決める。（文面、資料） ・ 割り付けをもとに下書き原稿を書く。 ・ 書いた原稿を読み合い、修正をして清書する。 ・ 清書した内容の資料を準備する。 ・ ポスターに貼り付ける。 ・ 発表原稿を書き、発表の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事『八十里を越えて海へ』をもとに、近い将来に国道289号が開通した場合の只見町について考える機会とする。 ○ 他の地域の産業等について調べる際には、FAX、インターネット等の活用を図るようにする。 ○ 他の地域の取組例について調べ、只見町で活用できないか考える。 ○ 海の文化や産業の良さを交流し、只見町の町づくりについて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 4～5人でグループを編制し、話し合いによってどのような提案をするか決めさせる。 ○ 原稿を書く際には、割り付けと同じ形、大きさの用紙を準備し、全員が同時に作業できるようにすることで、デッドタイムを無くす。 ○ 書いた内容が読み手に通じるかという視点で読み合いをさせる。 ○ 書いた内容をより分かりやすくするグラフや写真資料などを準備させる。
---------------------	---	--

<p>第四次 次 (8)</p>	<p>6 町の抱える課題と未来展望Ⅲ（４）</p> <p>『未来の町づくりを提案しよう』</p> <p>< 1 / 4 ~ 2 / 4 ></p> <p>◇ ポスターをもとに、提案のためのプレ発表会を学級で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つのグループがプレ発表を行い、互いの修正点について意見を述べ合う。 ・ 出された意見をもとに、ポスターや資料、発表原稿を修正する。 <p>< 3 / 4 ~ 4 / 4 ></p> <p>◇ 修正した原稿をもとに地域の方に対してプレ発表会を行い、意見をいただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに提案をし、質問や意見、感想をいただく。 <p>○八十里越の開通 ○エコパークの利用 ○町を南会津流通の拠点に ○自然の宝庫 ○登山の町 ○山菜の町 ○観光の町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いただいた意見を整理する。 <p>7 町の抱える課題と未来展望Ⅳ（３）</p> <p>◇ 地域の方からいただいた意見に対し、修正案を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いただいた意見の改善するための方法を調べる。 ・ 調べたことをもとに、原稿とポスターを修正する。 ・ 発表原稿を書き、全国海洋教育サミットに向けて発表の練習をする。 	<p>○ 学級でプレ発表会を行うことによって、互いの提案について理解するとともに、提案についての一体感をもたせる。</p> <p>○ 提案には、案だけでなく実現のための手立てまで可能な限り述べるように指導する。</p> <p>○ プレ発表会は、只見振興センターで行い、老人クラブやおたっしやサロンの人たちにも聞いていただく。</p> <p>☆G T 町役場職員、新國勇さん、三瓶清志さん 他</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎ 未来の只見町について提案するための視点を見つけ、その実現方法について具体的に提案することができたか。（観察・記録メモ）</p> </div> <p>○ 修正案がなかなかまとまらない場合には、G Tを訪ね、ヒントをいただくなどする。</p> <p>○ 書いた内容が読み手に伝わるかという視点で読み合いをさせる。</p> <p>○ 書いた内容をより分かりやすくするグラフや写真資料などを準備させる。</p>
<p>第五次 次 (2)</p>	<p>8 全国に向けて発表しよう ～ 全国海洋サミット ～（２）</p> <p>< 1 / 2 ~ 2 / 2 ></p> <p>◇ 只見の良さ、課題、未来の町づくりについて全国海洋教育サミットで発表するための準備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修正した発表原稿にもとづいて、発表の練習をする。 	<p>○ 書いた内容が読み手に伝わるかという視点で読み合いをさせる。</p> <p>○ 書いた内容をより分かりやすくする。</p> <p>○ グラフや写真資料などを準備させる。</p> <p>☆G T：東大海洋アライアンス</p> <p>※ 本発表は、2月に東京大学で行われる全国海洋教育サミットで行う。</p>

<p>第六次 (5)</p>	<p>9 これからの只見(5)</p> <p>< 1 / 5 ></p> <p>◇ 全国海洋海洋サミットでの本発表について振り返り、評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価と相互評価をする。 <p>< 2 / 5 ~ 5 / 5 ></p> <p>◇ 『自分とこれからの只見町』というテーマで作文を書き、只見町の住民としての自分の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分としての未来の町のイメージ。 ・ 自分の将来やこれからの生き方。 <p>◇ 作文を発表し合い、感想を交流する。</p>	<p>○ 未来の只見町の担い手として、これからの自分はどう生きるべきか、未来にはどこを担っているのかについて考え作文を書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ ESD、ユネスコエコパーク、発展などの理念が捉えられているか。(作文)</p> </div>
--------------------	---	---

◎評価の観点

「よりよく問題を解決する資質や能力」

未来の町づくりについて、調べたり話し合ったりしたことをもとに、具体的に提案している。

「学び方やものの考え方」

アンケートやインターネットなどを活用し、進んで調べている。

「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」

グループの仲間と進んで意見交換をし、ポスターづくりに意欲的に取り組んでいる。

「自己の生き方」

自分が未来の町づくりにどうかかわっていくかについて、自分の考えをもっている。